

愛犬飼育のノーマルハウいろいろ

(NO.3) 荻野愛犬病院獣医師 廿秋野 昌光

予防接種の心得と

その後の育て方

目次

1 予防接種のプログラム

3 腸内寄生虫症

フィラリヤ症の予防

a 回虫症

2 フィラリヤ症の一般的症状

b 鉤虫症

a フィラリヤ性皮膚炎

c 鞭虫症

b 腹水症

d コクシジウム症

c 血尿症

e 糸虫症

d フィラリヤ性咳嗽

4 幼犬の飼育と糞

e 肺栓塞症

a こころがまえ

f 心不全

b 糞小隆

c 食べ物に関してのお話

1 予防接種のプログラム

今回は、予防接種についての知識、病気についてのあらまし、犬にとって縁の切れない寄生虫の話などから始めましょう。「初回接種」生まれて初めての接種で、生後十週間位に、最近では七種混合ワクチンか、五種混合ワクチンを接種するのが普通となっております。

七種混合ワクチンとは、

①犬ジステンパー症

②伝染性肝炎 Ⅰ型

③伝染性肝炎 Ⅱ型

④カニココーラ型レプトスピラ症

⑤黄痘型レプトスピラ症

⑥犬バルボ腸炎

⑦ パラインフルエンザ症

五種混合ワクチンとは、七種から④と⑤のレプトスピラ症を除いたものです。これは、レプトスピラの病原媒介が、野鼠などによることが多く、特定の地域に限られて発生する事実から、地域によっては感染の惧れがないという理由によるものです。

ワクチンを打ったからといってその日からすぐに免疫ができるわけではありません。最低で二週間経たないと効果が出てきませんので、この期間は犬の外出は一切してはいけません。

飼い主も、この期間はペットショップにいったり、野良犬に触ったりはしないでください。人が病菌を持ってきて、自分の犬に伝染病をつつすような結果になることがままあるのです。

仔犬は非常にデリケートで敏感です。病気にも、生活環境にも細かい配慮が必要です。

「追加接種」最初の七種を打ってから、約一箇月後に再び五種混合ワクチンを接種します。

これで一応、幼犬期の予防接種は終了するわけです。

後は法律で接種が義務付けられている狂犬病の予防接種です

が、これは生後三箇月以上になったら必ず注射しなければいけません。毎年四月からがその時期で、この時は保健所で指定した場所で接種を受けることができます。それ以外の時期は獣医師の診療所へ行けば何時でも注射してくれます。この時注射済の証明書を買い、これを保健所へ地域によっては市区町村役場に届ければ登録ができます。家の犬は室内だからとか、小さくておとなしいからといって手続きを怠ると違反になります。次に、その他の罹りやすく、気を付けなければならない病気についてお話しします。

フィラリヤ症の予防

各予防の処置が終わったら、今度は犬の最大の敵であるフィラリヤ症の予防を始めなければなりません。もう良くご承知の方も多いかと思いますが一応お話しいたします。

これは、予防しなければ殆どの犬がこれで早死にするとと言っても過言ではありません。

犬の寿命は、普通十三年から十五年とされていますが、この

病気の予防をしない場合はとてもそこまでは生きられません。無防備の場合は室内犬であっても、四年目位でも呼吸困難で上診されることもよくあります。こういう場合殆どが既に手遅れで治療の方法がありません。

虫は統計的にはひと夏で約五十四匹が入ると言われています。すると統計上でも四年で二百匹の虫で心臓は一杯になることとなります。

この四年目位から症状が出てきます。いろいろな症状は次の項でお話ししますが、虫は一年目に入ったものが、四年目を迎えるとそろそろ寿命となって次第に死んでゆきますが、素直に消えては行きません。当然死ねば動けなくなるわけですから、心臓の動きに流されて肺動脈から肺臓へと移動して行きます。これが障害の原因となつてきます。

この時期を過ぎますと虫の数は少しは減るのですが、また、本年度の新しいの幼若虫が増えるので、結局、実数は増加することになります。不思議なことに犬のフィラリヤ症の症状の発現や死亡例は、この四年目に非常に多いのです。そして、これは

臨床上の経験なのですが、四年ごとに八年目、十二年目が発症、死亡共に非常に多いのです。これは統計などにもありませんので、単なる私の持論です。

フィラリヤ症の感染を簡単に説明すると、原因は蚊が血を吸いながら移してゆくのです。フィラリヤに感染して体内に幼虫を沢山持っている犬を刺した蚊は同時にこの仔虫を数匹吸い込み、これが蚊のマルピギー氏管という組織に入つて七日間位で感染力を持つようになります。これでこの蚊は刺すことによつて犬にフィラリヤを移す能力を持つこととなります。フィラリヤに罹った犬が近所に余計に居る地区では、新しい若犬はフィラリヤに罹かっている犬よりむしろ早く死ぬことが多いのは、抵抗力が弱く感受性が強いからです。

2 フィラリヤ症の一般的症状

a フィラリヤ性皮膚炎

四年目位から首筋の肩の辺から毛が抜けて禿げてくる。これが毎年春先になると発生し、だんだんと背中から尾の付け根まで広がってくる。犬は痒いので、当然足で搔くようになります

ので雑菌の汚染をうけて化膿し、なおさら悪化してひどくなつてきます。これは、早めに医者に見せれば治りますが、特殊な治療が必要なので、素人療法は禁物です。原因は単なる皮膚病ではなく、フィラリヤ虫の寄生による症状の一つです。血液内のフィラリヤの幼虫の出す毒素に対するアレルギーなのです。

b 腹水症

よく飼い主が「うちの犬は雄なのですが、妊娠したみたいにお腹が大きくなってきたのでみてください」と言つて、連れて見えることがあります。これもフィラリヤが原因のF性腹水症なのです。

一匹が二十五疔から三十疔もあるソーメンの様な長い虫が、多いときは三百匹以上もいることが珍しくありません。心臓の中はご存じの通り四つの部屋に分かれています。この内、右心室という体中を巡つて汚れた血液が酸素を求めて戻つてくる、この室にだけフィラリヤの成虫が集まっているのです。で

すから、大静脈の血液は充分に戻りきれずに鬱血の状態となります。当然心臓の機能も低下してきますし、鬱血が全臓器に波

及して行きますから、全体の調子が悪くなってきます。肝臓の血液も戻りが悪くなると、肝臓は静脈血が充滿してパンパンに腫れてきます。そして、表面から血球が濃された血清の状態になつた液体が腹腔内に滴り落ちます。間もなく大切な血液と同じ液がどんどんお腹の中に溜つてゆき、外から見るとまるで妊娠したお腹の様に大きくなります。

大きく張つたお腹は、ますます硬くパンパンに張つてきます。ついには犬は呻き声をだすようになります。昔は太い針をお腹に刺して、この水を抜いたものでしたが、これは先程お話ししたように血液と全く同じに大切な成分なのです。それを抜かれてしまつて、犬はたちまち弱つてしまいます。しかもお腹がべちゃんこになつて、一見楽になつた様に見えますが、また、何日かでもと同じ様に膨れてしまいます。犬はますます弱つて、ついに最後になります。

c 血尿症

心臓が弱つてくると、腎臓の機能も目に見えて低下してきます。オシッコの色がだんだんと薄い赤色や醬油を薄めたような

色に変わってきます。この腎臓の障害は非常に重大で、中には真つ赤な血と同じ尿をするようになることもあり、こうなると深い傷からドクドクと出血しているのと全く同じ状態で、犬はみるみる弱ってゆきます。種々の症状の中で、一番早い日数で死に到ることが多いのです。

d フィラリヤ性瘧咳

これは、割に早くから出てくる症状で、風邪をひいて咳が出ているのだけれど、何時までもとまらないと言ってくる方が多いのですが、これが風邪ではなくてフィラリヤの症状なのです。奥のほうから出る様な、ちようど喘息の咳の様です。

前に少し触れましたが、これはフィラリヤの仔虫が何万何十万と居て、それが皆有害の毒素を出して咳の原因となっていると思ってください。

治療を受ければ軽くなるりますが、毎年秋から冬にかけて頑固な咳に苦しむことになります。

e 肺栓塞症

aの項でお話ししたF性の瘧咳がもっと悪化し、加えて肺動

脈にまで虫が詰まって血の流れを留めてしまい、死んだ虫が肺臓の中にも多数入り込み、軟らかい肺胞を傷付け出血をもたらし、呼吸を妨げますと犬はひどい呼吸困難に陥ります。まるで長い道を全速で駆けて来たような呼吸で、ハーハーと苦しげな様子になります。

舌は紫色となり、目も血走ってきます。

この形がどの症状よりも一番苦しく哀れに見えます。飼い主にとつてこの光景は見るに堪えられない病状です。つくづく予防さえちゃんとしておいたら、こんなことに成らなかつたのに・・・と嘆く瞬間なのです。

肺栓塞は、ごく軽いものは治療で良くなりますが、重いものは全く手の打ち様がありません。

f 心不全

今までの症状のすべてが、心臓のフィラリヤ虫の多数の寄生による機械的障害と、毒性産出によって引き起こされる血流障害が原因で、各臓器にダメージを与え、悲劇的な結果にと進んでいきます。

心臓は中に一杯詰まった虫のために、極端に膨張して心拍の度に胸壁にぶつかります。心筋は浮腫を生じ、各静脈は一杯に怒張し、下肢下端などにも浮腫を生じます。

ざっとお話ししてきましたが、とにかく治療よりも予防です。困難な病気ですから、罹ったらおしまいと思うくらいに重大に考えてください。

最近では、研究が進んで、月に一回だけ飲ませればよい薬もできました。これも、仔犬の時の最初の六月から、月に一回決められた量をきちんとして服用させて、十二月まで続けます。間違はなくこれでこの恐ろしい病気を防ぐことができます。予防薬の服用を毎年このように続けることによって、確実に愛犬を長生きさせることができます。

予防や治療については、かかりつけの獣医師に詳しくお聞きになって、早めに準備なさってください。重症の犬には手術の方法もありますが、これも、どれにでも出来るものではありません。とにかく正しい予防が最善の方法です。

4 腸内寄生虫症

a 回虫症

仔犬には最も多い寄生虫で、(1)大回虫 (2)アメリカ小回虫の種類があります。

犬は母体の子宮の中ですでに虫の卵を貰ってきています。その為に生まれてすぐから虫が発育をはじめ被害を与えるようになります。

飼育者は、生後二十五日になると虫下しを飲ませる必要があります。通常この時期では先ず回虫の駆除だけを行います。これで回虫の成虫はほとんど下りてしましますが、卵までを殺すことはできませんので、二週間後位に駆虫薬を再投与します。回虫の場合は、普通幼犬の時だけで、成犬になると抵抗力ができてほとんど寄生することはないものです。

成犬になると、今度は別のもつと被害の激しい寄生虫に取り付かれることになります。

b 鉤虫症

成犬では最も被害の大きい寄生虫で、十二指腸に寄生し、鉤をもった口器で腸壁に食い付いて、血を吸い続ける害虫です。

虫の数が増えてくると、犬はみるみる貧血してきます。もちろん、この頃はひどい下痢便になってきます。水のような便に血が混じり、粘液も多くなってきました。犬は背中を丸めて元気がくうずくまるようになってきます。餌の食べも悪く、食べても戻ってしまうようになります。

重症になると、或る日突然に大量の血便を排泄して倒れます。この時はもう治療も間に合わないでしょう。こんなひどいことに成らない内に、診断と検査を受ければ、ほとんど治すことができますはずです。

この虫はほとんどの場合、感染した犬が排便をして行った汚れた道を歩いてうつります。犬の足は、ここだけから汗が出る構造となっているため、沢山の汗腺孔があり、そこから土やゴミの中で卵から幼虫になって待機していたこの虫が侵入します。後は血流れにのって発育しながらだんだん腸の方に流れてゆき、十二指腸に吸着します。

最近あったことですが、ひどいことに八頭生まれた仔犬が次々と全部死んでしまうことがありました。検査の結果、死因は

この鉤虫症だったので。気を付けましょう。

c 鞭虫症

これも成犬に多い腸内寄生虫で、面白いことに、盲腸に限定して生息します。長さは約五センチですが、ちよつと見ると一センチにしか見えません。何故なら、頭部の方が毛のように細くあたかも尻尾のようになっていて、細過ぎて見え難く、白く見える脘の部分だけが見えるのです。

この虫も頑固な下痢を引き起こして、慢性下痢症の様になります。半年でも一年でも下痢が止まらないのです。飼い主はこの犬は腸が悪くてもう治らないのだと思ってしまう様です。

検便でこの虫が居ることがわかれば、注射でも内服薬でも、簡単に治すことができるのですが、飼い主が医者に連れてゆかないと、検便で見付けにくいこと、感染力が非常に強いことなどの理由で何時までも減ってゆかない病氣の一つです。

d コクシジウム症

これは専門家(特にフリーダーなど)が割に軽く見ているように、そのためになかなか根絶できないでいる病氣です。特

に、野鳥がよく来る庭のある家や、養鶏場が近くにありその上野良猫の多い地域などに多発します。犬が興味から鳥や猫の糞を舐めたり、それらが付いて汚れた足の裏を舐めたりして感染します。

これは他の寄生虫のように肉眼で見えるものではなく、原虫と呼ばれるごく小さいものです。腸の中でオーシストという形になって胞を形成し、内蔵する核が分裂して増殖してゆきます。健康で調子の良い時には何もなく過ごしていますが、他の病気とか寄生虫などで体調を崩すと、途端に腸を侵し下痢を引き起こします。

この虫であることに気が付かないでいると、被害はどんどんとひどくなり、水瀉下痢が続ぎ、遂には血便となり、しまいは痙攣を起こします。

ブリーダーやペットショップなどがあまり気にしないようですが、仔犬に対する被害は想像以上に激しいものなのです。成犬でも油断はできません。

最近、こういう例がありました。三十^キも体重があったブル

ドックでしたが、下痢が始まったら、たちまち痩せてきてみる二十^キ足らずになってしまいました。すぐ治療を開始しましたが下痢は止まらず、粘液便、血便が相次ぎ、しまいには立つこともできず腰が抜けた状態になってしまいました。もちろん検便も根気良く何回も行いましたが、何時も陰性です。このお宅は広い庭があつて野鳥も沢山やってきます。家人が野鳥に餌も与えていたのです。状況判断から、コクシジウムの駆除をやってみましたら、間もなく回復してきました。この例は回復に約三箇月かかりました。このように決して軽く見てはならない病気であることがおわかりになったと思います。

e 条虫症

今はご存じない方も多いかも知れませんが、この虫は人にも寄生し、俗に真田虫(さなだむし)と言われ、相当の被害があつた時代もありました。

広節裂頭条虫など人の条虫は、幅の広い紐状の形をしているために、この呼び名(さなだむし)で呼ばれました。真田紐は手作り風の綿の細い帯のようなごつごつした紐で、荷物を背

負ったり結わえたりするときに、昔はよく使われたものです。

この紐の姿によく似ているので、この名で呼ばれるようになり
ました。この虫は、犬が身体にたかる蚤を捕食することによつ
て感染します。犬が蚤を食べると、蚤の体内に入っていた条虫
の卵が、犬の体内で発育を始めます。

犬条虫は、きゅうりの種を縦につなげた様な長い紐状になつ
ていて、その長さは三拵〜五拵もあります。そして、その一節
一節が一匹ずつなのです。人の無鉤条虫などは一連の長さが四
拵〜十拵もあります。

この虫が増えてくると、だんだんと便の状態が悪くなってき
ます。下痢にならなくても、排泄された便をすぐに棄ててしま
わないで、十分位経った後でもう一度見てみると、ご飯粒のよ
うに見える白い小さな虫が伸びたり縮んだりして、便の表面に
浮き出てきているのを発見することがあります。

腸の中で数拵も繋がっているこの虫は、一方は細く一方は太
くなっています。この太いほうが成熟虫で細いほうが幼若虫
です。腸の中では3拵から五拵にも長く紐状に繋がっていま

す。成熟すると一節ずつ切れて体外に出てきて、先にお話した
様な状態になるわけです。この一節ずつが虫の一匹なのです。

この虫の寄生は、顕微鏡による検便では発見することができ
ません。条虫は卵を産まずに胎生で増殖するからです。検便は
虫の産んだ卵を卵を便の中に見付けて寄生を判定するものなの
で、卵を産まないのでは見付けようがないのです。

この虫がいることがわかったら、駆除すると同時に蚤退治を
しないとイケません。そうしないと何時までも根絶することが
できません。蚤の駆除には、蚤取りシャンプーでよく効くもの
が市販されていますので、使用法をよく読んで全身を丁寧に洗
ってやります。この時気を付けることは、先ず頭から先に洗い
始めることです。何故かと言うと、犬を洗うときに背中から洗
い始める方が多いのですが、それだと蚤はいち早く頭の方に逃
げて行ってしまうからです。そして大切なことは、一回のシャ
ンプーで終わりにしないことです。一週間から十日目毎にもう
一度シャンプーをするサイクルを、三回繰り返すことです。こ
れは、蚤の卵が一週間から十日位の周期で孵化するからです。

それからよく皆さんがやるのは、蚤を見付けると必ずといってよいほどに捕まえて爪で潰してしまうことです。しかし、そうするとブツンと蚤が潰れると同時に、腹中にある卵が飛び出すのです。もちろんそれはそのまま一人前の蚤に成ってゆきます。手軽に蚤を殺すには、台所で使う中性洗剤の薄めた液を作っておくのが便利です。その中に棄てると蚤はすぐに死んでしまいます。

犬糸虫は、犬、猫、狐に寄生しますが、人には滅多にうつることはありません。しかし、子供の腸にはたまに寄生することがありますから、気を付けましょう。

エキノコックスという恐ろしい病気がありますが、これもこの糸虫の仲間です。い粒糸虫（「い」は、けものへんに胃袋の胃と書きます）がその原因で、人を含むほとんどの動物に感染し、包虫という形になって特に肝臓に多く寄生して、病変を起こします。

これに感染しているかどうかは、嚴重な血液検査をしなければ発見できません。十年二十年経ってから発病することも多

く、知らないで居る場合が普通で、中年過ぎになってから、腹部が腫れて大きくなり病院を訪れることになります。よく肝臓癌と間違えられて、手術して初めて大きく腫れあがった肝臓の全体にエキノコックスの寄生でできた多数の病巣が発見され、この虫の寄生が原因であったとわかります。日本では北海道の礼文島に感染者が多数発生し、防疫上、島の犬と猫を全部殺処分にしてやっと下火になったと言う事実があります。衛生当局の必死の予防体制にもかかわらず、遂に本土にも上陸し、発生数は少ないものの抗体反応が陽性の人は相当数いる模様です。

その為に、例えば北海道の層雲峡の東、石北峠の温根湯温泉にある北狐牧場は、観光客の前にひよっこりと狐が顔を出して喜ばせる所で、見学がすんで帰る時は手などをよく洗ってくださいと注意があるようですが、観光客にはそんな恐ろしい病気に対する注意とはわかりようもないと思われれます。

この病気は日本ではまだ珍しく、余り知る人もないようですが、外国、特にニュージーランド・オーストラリア・アメリカ合衆国南部・メキシコなどでは非常に恐れられている病気で

す。食肉用にする牛の腹を割くと、肝臓が大きく腫大してデコボコになっていることがあります。こういう場合は、この牛の全部を廃棄処分にして焼却しますが、そのパーセンテージは相当に高いようです。

とにかくこういう恐い病気があることを知っていたら、一にも二にも清潔な心がけてください。前に挙げたような地域に遊びに行かれたときは、小川や水溜りなどに素足で入らないこと、(幼虫は約十分間で皮膚の皮脂孔などから体内に侵入します)。それから、動物たちの頭や背中を撫でたりしないことが大切です。長くなりますので、虫の話はこの位にして、今度は飼ひ初めた時から注意しなければならぬことや、躰などについてお話しいたします。

4 幼犬の飼方と躰

a ところがまえ

新しく、可愛い仔犬をお飼ひになった時は、それこそ家中がソワソワして落ち着かないほど嬉しく楽しいものです。

さて、ここで一番考えてください。いくら利口だと言っても

犬も動物です。動物の持つ本能的な闘争心や、思わぬ残酷性を持っています。最近では若い男性も子供さんたちも非常に優しい方が多く、動物はすべて愛情をもって接し、可愛がつてやれば必ず良い犬に育ってくれると、誤解されている方が非常に多いのです。これは非常に重大な間違いで、小さいうちに人間社会のいろいろな決まりを教えてやらなければ、犬は後々まで良い悪いの判断のつかない犬となってしまいます。犬がこれから生きていく長い一生を、皆に嫌われ、怖がられて過ごさなければならぬとしたらどうでしょう。そんな犬は、非常に哀れで孤独の日々を送ることとなり、ますます孤立感を深め、なおさら悪い性質になっていきます。これは、人間の場合と同じだと思えます。こういうことにならないために、仔犬のうちから悪いことは悪い！良いときはスキンシップをまじえて十分に、むしろ大げさな位オーバーに可愛がつてやることです。

黙っていると仔犬は靴やスリッパを噛ってぼろぼろにするは、家具の脚を噛って無残な姿にしまわね、じゃれついて人の手には噛みつくわ、次々と悪いことばかりして、飼ひ主を

悲しませます。こういう時は厳しく叱ってやらなければなりません。叱って教えることが、真の愛情なのです。小さいのだから可哀相という甘やかしは、決して犬のためになりません。特に小さいお子さんは「叱らないで！」と言うことが多いようですが、お子さんに対する教育にもなりますので、親は悪い時には叱ってでも治してやらなければならない義務があるのだ、ということをお子さんにも教えてあげてください。

噛みつく時は、口で言うよりも早く手でピシッと素早く開いた口を横から叩いてやります。その後から、本気の叱り言葉を言います。できるだけ家族の皆さんが同じ言葉で騒るようになしましょう。皆がいろいろな言葉を使うと犬は混乱します。「駄目っ！・いけない！・よしよし！・待てっ！」などわかりやすくはつきりした言葉でこちらの意志を伝えてやりましょう。餌をやる時、おやつを与える時などは騒のよい機会です。しかし犬が、食べたくてじりじりする程じらしてはいけません。

り 寝小屋

秋から冬にかけて、仔犬はよく風邪をひくことがあります。

昼間は元氣よく遊んでいても、未だ体温調節が下手なので氣を付けないと、夜気温が下がってきた時にうまく対応できずに、風邪をひくことが多いのです。

「えっ！ 犬も風邪をひくの？」

ほとんどの奥さん方の反応がこれです。その次の言葉は

「どういう症状がでるのですか？」

と言う質問です。

この質問にお答えしますと、犬も動物ですから風邪もひくし、咳もします。氣が付かないでいると、熱が段々と高くなって四十度を越えることも珍しくありません。この頃になると、犬は鼻水を垂らし、咳をして、苦しげな様子を見せるようになります。それでも氣の付かない飼い主も多く、犬が高熱のため全く食事を採らなくなって初めて様子がおかしいと言って連れて見える方が多いのです。

獣医はこういう場合、先ず熱性伝染病を疑います。もちろん、大半の犬が全ての予防接種を受けていることが多いのですが、未だ適期の前であって何も予防接種がされていない時は、

さあ！大変です。数種の病気を考えなければなりません。しかし、予防接種が適切に行われている場合は、普通一回の注射と二〜三日の薬の内服で治ってしまいます。予防接種の重要性がおわかりになるかと思えます。

仔犬をお飼いになった方が、最も普通になさることは、籠の様な物に暖かい毛布などを何枚も重ねて、「暖かいわよ・・・さあ、ここでお休みなさい」とおっしゃるのですが、さて、この寝床が少しも暖かくないのです。考えてみればわかることなのですが、我々でも敷布団を何枚重ねて寝ても、掛布団がなくは寒くて寝られるものではありません。

犬と同時に新しい犬舎をお買いになることも多いと思えますが、これがそれだけでは案外に暖かくないのです。気密性があって、なるべく身体にあった広過ぎない箱型が宜しいわけです、格好や立派さにはかり気を取られて選んでしまうと、後に後悔することになります。大型犬は別ですが、小型犬や中型犬の仔犬などは、冬季は暖かい春が来る迄とか、ワクチンの効果が確定する迄は戸外生活禁止という期間がありますが、この時

も室内なら小屋など要らぬだろうというのは危険で、前記のような風邪をひくことが珍しくありません。

身体の大きさが決まるまで、お勧めできるのが段ボールを利用する犬小屋です。

下図のように、

天井があるように、

上部をそのまま利用し

て、入口をアーチ型に

切り抜いて作ります。

特に寒い時は、全体を

毛布等で覆ってやり、

入口も布を暖簾の様に

切って張り付けてやる

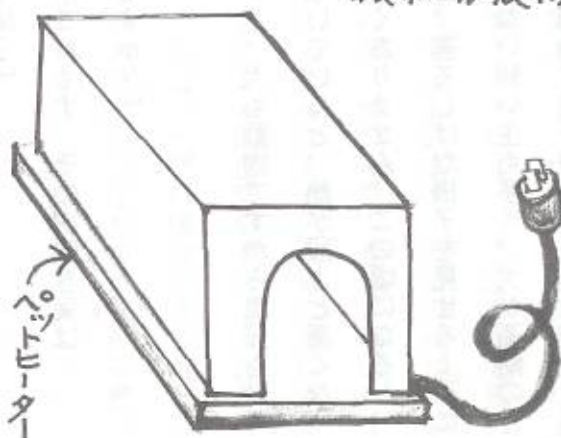
と、賊風が防がれて、

暖かい小屋になります。最初は入れても嫌がって出て来てしま

うのが普通ですが、何回も入れてやると慣れてきます。厳冬季

にはペットヒーターをお求めになって、箱の下に敷いてやるこ

段ボール製小屋



とも大切です。

c 食べ物に関してのお話

これも人間の場合と同じく、一生を左右する最も重要な問題です。飼養失宣と呼ばれる栄養のバランスを崩したために、糖尿病様疾患・尙優病・尿石症など、重要で生活に重大な影響を与える病気にかかる率が非常に増えてきています。特に、東京・横浜などの都市部では、このような代謝障害に起因する疾病が増加しております、病犬の半数位になるのではないかと思われます。

三箇月から六箇月位の犬が、前脚の節々（関節部）が腫れて大きくなってくると同時に、中手骨が湾曲してきます。カルシウムを主とするミネラル、無機質の不足による骨生成の異常による骨軟化で、体重を支えきれずに曲がっていくのです。特に、シェパード犬・グレートデン・ドーベルマンピンシエル・秋田犬などには非常に多い病気です。ひどい時は前脚を曲げて肘で歩き回り、皮膚は破れ骨がむき出しになり化膿が始まって悪臭が鼻をつく状態となり、それでも犬は鳴きながら歩き回

ります。これは総て飼い主の間違った飼方のせいなのです。自分がかうまいと思うものを犬にも与えて、喜ぶ様子を見て自己満足するということの結果が、こういう病気を引き起こすのです。これも、早期発見によって治すことができますが、ひどくってからではどうしようもありません。

甘い菓子類などは、絶対に与えてはいけません。五く六年で白内障のために盲目になってしまふ犬も少なくありません。

普通食を与える方は、犬の栄養学をよく調べて研究してください。犬の栄養学に関する本は沢山出ていますが、それぞれ主張があつてまちまちで、中には間違つていられると思われれるものもあり、なかなか難しい問題です。

ドックフードも、最近によく研究されて良質の物も多く販売されておりますので、獣医師などに相談して選ばれるとよいと思われれます。ただし、幼犬期、壮年期、高年期と年齢によって成分の違うフードを与える必要があります。

アメリカのメーカーなどは、実によく研究しております、信用して宜しいかと思われれます。

国産の場合は、品質は高級なのですが、医学的研究に未だしの感があり、犬の味覚に沿う物が多く、販売量の拡大のみに走っているような気がします。

優れた品質のフードは、年間数百頭もの仔犬を産室しているブリーダーの現場でも、全くドックフードだけで飼育して、大型犬、小型犬を問わず順調に発育しております。

あるブリーダーの所で、小学校給食の残飯を調理して与えた時期がありました。その期間は下痢が相次ぎ、体調を崩した仔犬が多かった様です。

要するに、良いフードを選べば、完全にフードだけで、発育や健康維持に全く問題はなく、むしろ、人間の食べる美味しいものを与えると言うことは人間の自己満足であって、長い間にはいろいろの障害を引き起こし、病気の元になってゆきます。

犬は、ご存じの通り肉食動物の系列に入る動物です。歯牙、唾液の組成、食道の構造、胃腸の機能、消化液の成分など人間を代表とする雑食動物とは大きな違いがあつて、例えば、人間の病人食であるお粥やおじやなども、犬にとっては決して消化

のよい食べ物ではないのです。

始末の悪いことには、犬は匂いに敏感ですから、一度よい匂いのする食べ物を買ってしまつと、再びそれを買いたくて、ふだん買っているドックフードなどを拒否するようになるということです。飼い主は「毎日同じ物ばかりやっているの、飽きてしまったのね。可哀相にねえ・・・。」ということ、いろいろな物を与えるようになるというパターンの始まりです。

犬は肉食動物であるとお話ししましたが、犬にとって一番好ましい食べ物は生肉と、よく消化された草や木の実が一杯詰まつた草食動物の内蔵です。大自然の中ではランオンや豹など猛禽類は、鹿などの獲物を捕らえると先ず腹部を食い破つて、腸などを最初に食べ始めるのが普通です。草や澱粉質、果物などは、犬にとっては不消化物ですが、草食動物がよく噛んでくれたこれらの植物は、犬にとつても消化できる美味しく素晴らしい御馳走なのです。

これらのことを基準にして研究を重ね製造された上質のドックフードは、十分に信頼できます。

最近格安の冷凍肉などが出回っています。訓練所や一部のブリーダーなどで愛用されている向きも多いのですが、こういう獣肉は病死したもので、正規のルートにのせられない品物が殆どです。決して犬に与えることがないようお願いします。

ご存知でしょうか？最近イギリスで発生して大混乱になっている狂牛病という病気があります。イギリスでは牛に羊肉を調理して与えるといわれていますが、燃費の節約のために加熱する温度を下げて、いわば生煮えの状態を与えていたために発生したといわれています。狂牛病とは、スクレイビー病に罹かった羊の肉を食べたときに感染し、Mad Cow Diseaseと呼ばれる、牛海綿状脳障害と邦訳されています。

狂牛病に罹かった牛は、突然に口から泡をふき、歩行が困難になって倒れます。死後解剖によって、脳が海綿状になって異常な状態であることが確認されています。困ったことは、この牛肉を人間が食べると、このウイルスに感染します。

このニュースが国内外に流されて、ヨーロッパ諸国はパニックとなり、直ちに不安から不買運動が起きて、これは現在で

も続いていると思われれます。

恐ろしいのは、アメリカ各州で無気力症なる病気が発生し、今まで自他共に認める熱血漢だった警察官が、突然に職場を放棄して無力症状を訴えて離脱したり、有能な職員が突然業務を拒否して自宅に帰ってしまったりする変状が次々に発生して、衛生当局は対応に追われているというニュースが報道されています。現在三百万の患者がいるといわれていますが、治療法はもちろん、どういう病気なのかも全くわからないため、第二のエイズになるのではとの心配も出ています。この病気は、狂牛病が感染したのではないかと言われています。

怪しげな、出所のわからぬような肉を愛犬に与えるのは止めましょう。

他に、肉に関しては、仮性狂犬病という真性狂犬病とは少し違うけれど、狂犬病とよく似た病気もあります。これも、ウイルスに侵された生肉を食べてうつる病気です。我々人間もなま物には気を付けましょう。

未だ、いろいろとお話ししたい事柄も沢山あるのですが、余

り長くなりしますので終わりにしますが、ワンちゃんは正しく飼育すれば、十五年は生きますから、どうぞコンパニオンとして真の愛情をもって、悪いときは厳しく叱り、良い子のときは心から可愛がってやってください。

犬も、中年位になると、いろいろの病気の心配をしなければならぬ時期です。参考のために、成犬の罹りやすい病気を列挙してみます。

- (1) 代謝機能障害
- (2) 歯石沈着のための歯槽膿漏
- (3) 乳腺腫瘍(雌)
- (4) 子宮蓄膿症(雌)
- (5) 副睾丸腫瘍(雄)
- (6) 尿道結石症
- (7) 糖尿病様疾患(白内障)
- (8) 腸内寄生虫
- (9) 内分泌異常による皮膚病

以上、特に多いものを挙げてみましたが、「犬にもそんな病気が

があるの？」などと言わないでください。人間にある病気は、犬にもほとんど発生します。と言うより、犬は人任せで、自分では何もわからない訳ですから、むしろ人より多くて当たり前とも言えます。どうぞ、近くの良心的な獣医さんと親しくなつて、病気の早期発見によって、早く治すようにしてください。いろいろなアドバイスも積極的に受けるようにしましょう。

だいぶ長くなつてしまったので、この稿を終わりますが、ワンちゃんは長いお付き合いのできる心の友です。末永い健康をお祈りしています。

またの機会に・・・

(荻野先生の手稿は早くに載っていたのですが、オットーテイルの発行が遅れてしまったために、今号に二編を同時に掲載させて戴くことに致しました。悪しからずご了承ください。

(編集子)